

松木日向緑地プログラム 竹林整備＋竹を使った工作

単独実施

2021年12月19日（日）

報告

■ 年越し前の緑地整備

気温こそ低いものの青空の広がる中、2021年最後の「松木日向緑地プログラム」を12月19日（日）に実施しました。今回は竹の伐採だけでなく、緑地整備と利活用という観点から樹木に絡みつくとツルもとったり、伐採した竹を使って工作したりするという取り組みを学生9名で行いました。

■ 利活用のアイデア

活動にあたり4つのグループに分けられました。お正月も近いということで、まずは門松作りに取り組みました。伐採した竹を門松用に切る際、綺麗に斜めに切ることや長さを考えて切ることの難しさを感じました。しかし、その試行錯誤の過程は竹の利活用について、より具体的に考える時間になったと思います。

また、グループメンバー同士で話しながら取り組むことで、門松以外の利活用アイデアも色々出てきました。緑地は場所によって種類の違う竹が生えています。太くてしっかりとした孟宗竹と少し細い真竹では色も若干違いますし、できあがる作品の雰囲気が変わってきます。それぞれの竹を伐採しながら、各々がアイデアを形にしていきました。



ツルを取ることに挑戦しました。絡みついたツルは長く頑丈でなかなか取れず、取ろうとすると思わず自分が樹木にぶら下がってしまうほどでした。ツルはあちこちの樹木に絡みついていたのですが、引っ張って取るのはその場しのぎ的な除去であり、これだけ繁殖してしまうと簡単にはいかないことを感じました。どうにかとれたツルでは、リースを作成しました。

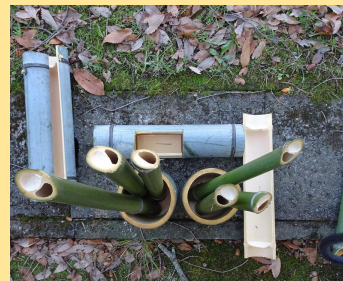


■ 今回の活動場所



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

■ 利活用作品（一部）



今回はみんな子どものような顔で取り組んでいました。楽しく利活用を考える機会になったと思います。作品はそれぞれ持ち帰り、自宅でも更にアレンジして楽しむこととしました。

■ 参加者の声

・いつもの伐採だけの作業ではなく、工作もあったため、みんなの作品をみて、それぞれの個性もあり、それを知ることができ、とても楽しかった。

・門松作りは、竹の太さを選ぶ、長さを考えて切る、バランスを調整するなど一人で考えてみたり、周りと相談したりしながら作業するため、体験会に向いていると思った。小学生の場合、斜めに切るのが難しいかもしれない。その場合は、長さ調整だけやらせるとよいと思った。今日のように個々がかなり自由に、自分の手を動かして作業する時間があると、竹の利活用をより具体的に、実現可能性も考慮して考えられるようになって感じた。枝払いをするよう声かけしようと思っていたが、活動が始まると忘れてしまっていたこと、時々一人で集中してしまったことは反省している。

竹を使った作品集

門松



■ 笑顔に見えますね！笑門来福



■ 喜んで春が来そうですね



綺麗に竹を斜めに切るコツは、竹の下部から上部に向けて切ることだそうです。上部から下部に向けて切ると切り口に「カエリ」というギザギザの切り残しのようになってしまいます。門松を作るにあたり、飾するためには何が必要かとか、門松の由来などを調べる機会にもなりました。

インテリア～屋内編～



■ 竹のある生活、緑のある生活

インテリア～屋外編～



■ 作った餌台を吊るしたところ、メジロとシジュウカラが来たとのこと！

インテリアとしても素敵ですよ。竹は正に天然素材でありますし、色合いや雰囲気、太さも1本1本違います。切る部位や長さによっても思いつく用途が変わってきます。利活用という点でも、色々アイデアを出しやすいと思いました。

食の楽しみ



◀ 竹にお米を入れて炊く。「竹ご飯」



▲ 「油抜き」をした竹。きれいな緑色になりました。

竹の香りのするご飯！考えただけで食欲が湧いてきますね。

初詣に因んで作成



■ 乾燥と油抜きをしっかりとしました。みんなで運だめし！